

## 検査項目でわかること

◆基本的な項目（＊は福岡県後期高齢者医療広域連合が独自に追加したもの）

	検査項目	この検査でわかること	
身体計測	BMI	BMIは、「体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)」で算出します。 体格がわかります。	
	収縮期血圧 拡張期血圧	心臓が収縮して血液を送り出すとき、圧力が最高(収縮期血圧)となり、心臓が元に戻るとき最低(拡張期血圧)となります。 血圧が高い状態が続くと、血管に負担をかけ、血管を傷めることとなります。傷ついた血管には、脂質などが溜まりやすくなり、動脈硬化が進みやすくなります。	
血液検査	中性脂肪 HDL コレステロール LDL コレステロール	中性脂肪や LDL(悪玉)コレステロールの値が高いと脂質が血管の中に溜まって動脈硬化を進めます。脂質が血管をふさいで血流が遮断されると、心筋梗塞や脳梗塞を引き起こします。 HDL(善玉)コレステロールは、血管に溜まった余分な脂質を取り除く働きをしています。	
	GOT(AST) GPT(ALT) γ-GTP(γ-GT)	肝臓の働きを知るための検査です。	
	空腹時血糖	糖尿病の発見の手がかりになります。インスリン不足やインスリンの働きが悪くなると、血糖値が高くなります。	
	ヘモグロビン A1c ＊	糖尿病の発見の手がかりになります。過去1～2か月の平均的な血糖の状況がわかります。	
	尿酸 ＊	痛風や腎臓病で数値が高くなります。	
	血清クレアチニン及び eGFR ＊	腎臓の働きを知るための検査です。	
	貧血検査 ＊	赤血球数、血色素量、ヘマクリット値を調べる検査です。数値が低いと貧血が疑われます。	
	血清アルブミン ＊	栄養状態を確認するための検査です。数値が低いと低栄養状態が疑われます。	
	尿検査	糖	糖尿病の発見の手がかりになります。
		蛋白	尿の中のたんぱくを調べる検査です。尿の中に通常、たんぱくは現れないので、陽性(+)以上の場合は、再検査や精密検査を受け、原因を調べる必要があります。
		潜血 ＊	腎臓や尿路に炎症や疾患があると陽性になります。

◆詳細な項目(医師が必要と判断したときに実施します)

貧血検査	赤血球数、血色素量、ヘマクリット値を調べる検査です。数値が低いと貧血が疑われます。
心電図	心臓病の発見の手がかりになります。
眼底検査	眼底の網膜や血管の状態を調べる検査です。目の病気(白内障や緑内障)だけではなく、高血圧や動脈硬化、糖尿病性網膜症などの病気を発見する手がかりになります。
血清クレアチニン検査	腎臓の働きを知るための検査です。